

平成23年度酪農教育ファーム活動 事業報告（案）

平成24年3月26日

社団法人**中央酪農会議**

酪農教育ファーム推進委員会



酪農教育ファーム活動の現状

1 . 認証牧場及びファシリテーターの数

平成23年度当初の酪農教育ファーム認証牧場（以下「認証牧場」という）は309牧場であり、全国で10牧場増えたが、同じく10牧場が認証を辞退したため、23年度末には309牧場となる見込みである。

また、酪農教育ファームファシリテーター（以下「ファシリテーター」という）は23年度当初の583名から新たに認証された52名が加わったが、79名が認証を辞退したために27名減少して、全国で556名となる見込みである。これを地域別にみると、下表のとおりである。

酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーターの推移

地域	認証牧場												ファシリテーター			
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H20	H21	H22	H23
北海道	27	30	43	45	49	51	50	53	50	51	53	48	70	86	96	82
東北	17	17	20	20	20	20	34	44	38	42	43	43	60	67	75	71
関東	25	29	37	38	40	43	43	45	49	60	65	68	84	119	134	135
北陸	4	6	6	6	7	7	7	7	14	16	17	17	38	39	40	43
東海	12	15	17	17	19	29	29	42	47	49	49	49	69	75	90	82
近畿	4	7	10	10	10	10	11	12	12	13	15	14	16	25	32	34
中国	7	9	10	11	12	12	14	15	14	17	18	19	19	24	31	28
四国	2	2	2	2	2	3	4	6	7	7	8	8	12	12	18	19
九州	17	19	21	22	21	22	23	23	23	33	38	40	35	56	63	58
沖縄	1	1	1	3	3	3	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4
合計	116	135	167	174	183	200	217	249	257	291	309	309	407	507	583	556

2. 活動実態結果（23年度上期）

）認証牧場での受入

22年度は口蹄疫の影響により牧場での体験者数が大きく落ち込んだが、23年度上期は、体験者数で前年対比274.3%となり、大きく増加している。また、21年度対比でも約8割にまで回復している。区分別にみると、学校などの団体において前に比べて数字が伸びているが、個人・グループの実績が伸びていない。これは、口蹄疫発生以降、不特定多数の訪問者の体が困難になっているためと考えられる。

また、今回初めて「外国人グループ」の実績について調査したが、全国の観光地を中心に、103件、1,400名弱の受入の実績が明らかになった。

【区分別】

年度	23年度						22年度		21年度		
	区分	件数(件)	22年度対比	21年度対比	体験者数(人)	22年度対比	21年度対比	件数(件)	体験者数(人)	件数(件)	体験者数(人)
上期	幼稚園・保育園	445	240.5%	82.9%	37,102	334.0%	97.2%	185	11,109	537	38,162
	小学校	1,190	178.1%	91.0%	76,952	178.5%	105.9%	668	43,121	1,308	72,650
	中学校	713	193.8%	89.7%	52,165	228.3%	117.7%	368	22,847	795	44,312
	高等学校	253	191.7%	82.4%	10,149	98.3%	81.8%	132	10,327	307	12,401
	大学・専門学校	245	216.8%	71.8%	5,427	153.5%	89.1%	113	3,535	341	6,091
	特別支援学校	153	151.5%	79.3%	4,181	157.8%	105.4%	101	2,650	193	3,968
	子ども会などの団体	911	251.0%	57.0%	30,701	239.9%	63.0%	363	12,797	1,599	48,698
	学校などの団体	3,910	202.6%	77.0%	216,677	203.7%	95.8%	1,930	106,386	5,080	226,282
	個人・グループ	13,972	72.9%	15.0%	304,667	402.4%	69.9%	19,171	75,707	93,039	435,558
	外国人のグループ	103	-	-	1,381	-	-	0	0	0	0
	その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	58	8,480	24	789
	全体合計	17,985	85.0%	18.3%	522,725	274.3%	78.9%	21,159	190,573	98,143	662,629
通期	幼稚園・保育園							599	31,225	968	56,137
	小学校							1,385	87,882	2,116	120,051
	中学校							519	27,425	1,126	50,112
	高等学校							207	13,430	527	19,818
	大学・専門学校							229	5,427	499	8,986
	特別支援学校							194	4,620	308	6,656
	子ども会などの団体							663	21,327	2,146	63,812
	学校などの団体							3,796	191,336	7,690	325,572
	個人・グループ							45,964	210,776	116,070	548,048
	その他							70	9,731	3,753	5,609
	全体合計							49,830	411,843	127,513	879,229

注1：上記は報告があった数字。23年度上期の調査回収率は約90%。22年度と21年度については、いずれも回収率約95%。

注2：区分において「外国人のグループ」を調査したのは23年度のみ。

2 . 活動実態結果（23年度上期）

2) 出前授業の実施

近年、出前授業の実施が増加している。23年度上期においては、全国で60名が出前授業を実施している。口蹄疫発生以降、牧場での体験プログラムを出前授業に変更して実施しているという報告が複数あるため、今後、出前授業のニーズはますます高まると考えられる。

【区分別】

年度		23年度 【実施者60名】				22年度 【実施者37名】		21年度 【実施者28名】	
区分	件数(件)	22年度対比	21年度対比	体験者数 (人)	22年度対比	件数(件)	体験者数 (人)	件数(件)	
上期	幼稚園・保育園	29	90.6%	41.4%	2,016	134.0%	32	1,505	70
	小学校	122	83.6%	254.2%	9,413	108.3%	146	8,689	48
	中学校	40	33.6%	666.7%	2,730	36.9%	119	7,390	6
	高等学校	9	112.5%	450.0%	704	104.5%	8	674	2
	大学・専門学校	17	154.5%	850.0%	603	186.1%	11	324	2
	特別支援学校	4	50.0%	200.0%	52	43.7%	8	119	2
	その他の学校	36	100.0%	720.0%	3,378	263.3%	36	1,283	5
	子ども会などの団体	6	40.0%	200.0%	448	15.8%	15	2,838	3
	学校などの団体	263	70.1%	190.6%	19,344	84.8%	375	22,822	138
	イベント会場	43	7.3%	119.4%	18,404	256.3%	589	7,181	36
全体合計	306	31.7%	175.9%	37,748	125.8%	964	30,003	174	

注1: 上記は報告があった数字。

3) 口蹄疫・東日本大震災の活動に対する影響

今回調査した牧場のうち、53牧場が牧場への受入実績がないことがわかった。その理由として、家畜防疫に配慮してという牧場が10牧場、東日本大震災の発生による旅行客の減少や、原子力発電所事故による放射能問題を挙げている牧場が5牧場あった。

また、震災の影響により、体験がキャンセルになったり、牧場への来場者が全般的に減ってきているという報告が多数みられた。

事業の実施状況

1. 認証制度の適切な運営と認証審査・研修会、 認証に係る広報活動等の実施

(1) ファシリテーター・牧場の認証募集期間：12月20日(火)まで

認証募集については、指定団体に案内するとともに、業界誌(DAIRY MAN、Dairy Japan)、業界紙(全酪新報)やホームページ等を通じて広く酪農家・関係者に告知。また、全国段階での募集と併せて、地域推進委員会が中心となって、地域単位での説明会等を開催。

(2) ファシリテーター及び牧場の認証申請に応じて、 地域推進委員会・指定団体を中心に現地審査を行った。 審査委員会は1月5日に開催。

平成23年度酪農教育ファーム認証審査委員 名簿(順不同・敬称略)

氏名	所属・役職等
1 西田 敦子	全国退職女性校長会 副会長
2 林 克郎	千葉県酪農農業協同組合連合会 参与
3 松下 克己	松下牧場(静岡県) 代表
4 溝本 朋子	千葉県農業共済組合連合会 南部家畜診療所 係長
5 内橋 政敏	社団法人中央酪農会議 事務局長

(3) ファシリテーターの認証研修会について、 3箇所で開催(1泊2日)。

東京：1月25日(水)～26日(木)

大阪：2月7日(火)～8日(水)

札幌：2月21日(火)～22日(水)

地域	新規認証牧場	新規ファシリテーター
北海道	2	6
東北	0	7
関東	4	15
北陸	0	5
東海	0	5
近畿	1	6
中国	1	0
四国	0	2
九州	2	6
沖縄	0	0
合計	10	52

2. 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための 研究会や情報交換会の開催

- (1) 地域推進委員会が主体となって、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者との「出会いの場」（共同の研究会・研修会など）を開催。
- (2) 全国規模の「出会いの場」として、全国各地で情熱を持って酪農教育ファーム活動を実践しているファシリテーターと教育関係者など約60名が参集し、8月8日（月）に新宿区立東戸山小学校において、酪農教育ファーム全国実践研究会議を開催した。

第1部は、広島大学大学院教育学研究科・鈴木由美子教授より、「酪農教育ファームにおける『いのちの学び』～生命尊重の価値観により、自他相互思考の育み～」と題して、22年度に実施した調査研究結果の概要について実際の体験映像を交えて紹介していただいた。

第2部は、「口蹄疫が酪農教育ファーム活動に与えた影響と今後の対策」というテーマでグループディスカッションを実施した。



3. 酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する社会的認知の促進

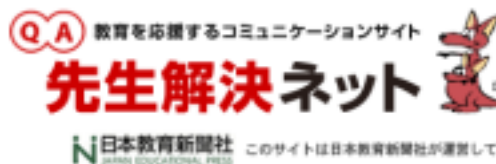
- (1) 教育関係者に酪農の教材価値について訴求するため、「酪農」を教材に授業作りを提案するワークショップ形式での研修会を2回開催。
- (2) 酪農教育ファーム活動への参画を促す「きっかけづくり」の場として、酪農家による小学校へのモデル出前授業【酪農家が伝える「食」と「いのち」】を5回実施。また、教育委員会が主催する出前授業イベント等に出席し、活動のPRを行った。
- (3) 酪農教育ファーム活動の教育的効果などについて、教育専門誌を通じた情報提供を実施。日本教育新聞には、酪農体験の様子と、22年度の教育的な効果に関する調査研究の報告を11月に掲載するとともに、ホームページ「先生解決ネット」にも資料を掲載。

モデル出前授業の実施

実施予定日	場所	対象者(小学生及び保護者)
3/5	江東区	3年生、約100名
3/8	品川区	6年生、約70名
3/12	多摩市	3~4年生、約160名
3/14	小平市	3年生、約90名
3/15	厚木市	3年生、約80名

教育関係者対象の研修会

開催日	場所	受講人数
1/14	札幌	16
1/28	東京	30
計		46



4 . ファシリテーターに対するスキルアップ研修会

【目的】

牧場あるいはそれと類似するフィールド（学校や地域のコミュニティなどで行う出前教室）の中で酪農体験を行い、参加者

（体験者）と支援者（酪農教育ファームファシリテーター）がより良い関係性（積極的な関わり、勇気づける言葉、双方向のコミュニケーションなど）を作り、酪農教育ファーム活動の目的である「食」と「いのち」の学びを、参加者自身が主体的に参加することで感じたり、気づいたりし、相互作用の中から学び合い、創り出すためのコミュニケーションスキルを磨く。

また、交流活動が安心して行えるように、安全・衛生対策についても確認する。

スキルアップ研修会受講者

開催日	場所	受講人数
9/12	岡山	10
9/30	札幌	20
10/21	名古屋	20
11/4	新潟	25
11/14	東京	38
11/30	福岡	12
12/7	盛岡	21
計		146

やむを得ない事情で研修会に参加できなかったファシリテーターに対する措置の検討については、資料 3において協議。

5 . 酪農体験プログラムの効果検証

(1) モデルプログラムの作成及び検証

【研究代表者】早稲田大学教職大学院 田中博之教授

【研究対象】新宿区立東戸山小学校低学年児童67名(2クラス)

【活動を行う牧場】吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路(埼玉県)

【研究結果】

生活科を核として、国語科、図工科、道徳を関連付けた教科横断的なカリキュラムを開発し、活動を総合的に組み合わせた。また、牧場で2度にわたって酪農体験を実施するとともに、学校に酪農家に来てもらう出前授業を取り入れたり、「楽しい体験」ばかりでなく、吉田牧場での「悲しい出来事」(牛の出荷)を授業で取り上げるなど、多様な活動を実施した。

体験をそのままにせず、児童が自分のなかで咀嚼し解釈しなおすことで、命の大切さや食への感謝の気持ちを高めることができた。

(2) 酪農体験活動における酪農家の指導法に関する研究

【研究者】

研究代表者 大妻女子大学 石井雅幸准教授

共同研究者 広島大学大学院 木下博義准教授

【研究対象】全国の認証牧場で活動を行う酪農家

【研究結果】

命や食の大切さ、相手に対する思いやりを児童がもてるように、酪農家は声かけを行っている。児童が牛の行動や習性をイメージしやすいように、自分たちと牛とを比較して考えさせるような声かけを行ったり、児童が自分の行動に対して牛はどう感じたり、反応したりするのかということを感じさせるような言葉かけを行うことが効果的である。

6 . 全国推進委員会等の開催

平成23年度酪農教育ファーム推進委員名簿

順不同、敬称略

氏名	所属・役職等	区分	備考
1 羽豆 成二	帝京短期大学生活科学科 前教授	教育関係者	委員長
2 國分 重隆	日本酪農教育ファーム研究会 会長 【新宿区立東戸山小学校 校長】	教育関係者	
3 亀山 桂子	三鷹市立第二小学校 校長	教育関係者	新
4 田山 修三	札幌市観光文化局 文化部文化財課 (北海道教育大学非常勤講師)	教育関係者	
5 角屋 重樹	文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 部長	研究者	
6 大江 靖雄	千葉大学大学院園芸学研究科 教授	研究者	
7 青山 浩子	農業ジャーナリスト	ジャーナリスト	新
8 木島 俊行	株式会社明治 執行役員 調達本部 酪農部長	メーカー	
9 田村 学	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官	行政	
10 藤田 毅	地域交流牧場全国連絡会 会長 【フジタファーム(新潟県) 代表】	酪農家	
11 村上 隆彦	むらかみ牧場(北海道) 代表	酪農家	
12 吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路(埼玉県) 代表	酪農家	
13 近藤 好弘	ホクレン農業協同組合連合会 酪農部 次長	生産者団体	新
14 赤尾 學	東海酪農農業協同組合連合会 代表理事専務	生産者団体	
15 山口 昌春	九州生乳販売農業協同組合連合会 代表理事常務	生産者団体	

(1) 23年度第1回推進委員会は10月31日に開催。第2回委員会を3月26日に開催予定。

(2) 全国推進委員会と地域推進委員会、地域推進委員会間の連携を強化するため、酪農教育ファーム全国・地域推進委員会合同会議(全国と9地域の推進委員会委員長及び事務局を参集)を5月20日に開催した。

(3) 地域での活動計画を策定し推進するため、全国9地域で地域推進委員会を開催。都府県推進委員会の設置についても、各地で推進中。

(4) 事務局(指定団体)担当者会議を7月20日、3月14日に開催。

7 . 地域推進委員会の活動の充実

平成23年度 酪農教育ファーム推進委員会の開催状況(地域)

地域		日時
北海道	北海道	6/8
	北海道	2/29
東北	東北地域	7/7
	青森県	2/22
関東	関東地域	6/25
	関東地域	3/24
	埼玉県	5/26
	埼玉県	7/7
	埼玉県	12/20
	千葉県	1/21
	神奈川県	8/9
	神奈川県	2/1
	静岡県	5/19
	静岡県	3/14

地域		日時
北陸	北陸地域	7/4
	東海地域	7/4
東海	東海地域	11/15
	東海地域	3/7
	愛知県	6/3
	愛知県	6/4
	岐阜県	7/7
	岐阜県	12/20
	岐阜県	2/28
	三重県	7/6
	三重県	12/15
	三重県	2/29
	長野県	7/14
長野県	2/14	

地域		日時
近畿	近畿地域	6/17
	近畿地域	10/5
	近畿地域	2/28
中国	中国地域	8/5
四国	四国地域	7/7
	高知県	6/14
九州	九州地域	6/25

23年度に新たに組織されたのは、千葉県。

未認証酪農家への働きかけ(説明会の開催)

地域	実施日	実施場所	対象	参加人数	内容
北海道	12/13	ホクレンビル会議室(札幌)	酪農家(未認証含む)	25	新規認証取得説明会(活動趣旨や意義、具体的な活動内容の紹介)
関東	11/10	神奈川県伊勢原市 藤沢市、横須賀市	〃	28	新規に酪農教育ファーム認証を目指す酪農家を対象にした視察研修会
近畿	1/24-25	弓削牧場(兵庫県)	〃	35	1. チーズ研究、2. 牛乳の機能と役割研究、3. 出前授業研究(他地域の取り組みから)、4. 防疫対策研究
中国	12/7	安富牧場(岡山市)	〃	32	1. ミルク鍋を調理、試食、協議、2. 広島大学教育学部木下准教授講演「酪農と子供をつなぐ学習体験」、3. 東日本大震災の現地支援活動報告

7 . 地域推進委員会の活動の充実

平成23年度 酪農家と教師の「出会いの場」開催状況

地域	実施日	実施場所	対象	参加人数	内容
北海道	7/29	むらかみ牧場(恵庭市)	教員・栄養士(小学校)	47	牧場で酪農体験！～生産の現場で学ぶ「酪農」「食」「いのち」～
	8/18	むらかみ牧場(恵庭市)	大学生(栄養教諭希望)	52	牧場で学ぼう！(酪農教育ファームの活動や教育的価値の啓蒙)
	8/19	むらかみ牧場(恵庭市)	大学生(栄養教諭希望)	39	牧場で学ぼう！(酪農教育ファームの活動や教育的価値の啓蒙)
関東	7/25	栃木県(牧場・CS)	都内小学校教員	43	先生のための酪農体験学習会
	8/5	松下牧場他(静岡県)	教員	26	学校教職員を対象とした視察研修
北陸	10/22	(有)フジタファーム 新潟県農協乳業(株)	中越地区学校栄養教諭	25	1. 牧場での研修 2. 乳業工場での研修
	11/12	新潟大学農学部附属 フィールド科学教育研究センター 塚田牛乳	新潟大学教育学部学生	12	1. 牧場での研修 2. 乳業工場での研修
	11/26	新潟大学農学部附属 フィールド科学教育研究センター ヤスダヨーグルト	下越地区学校栄養教諭	24	1. 牧場での研修 2. 乳業工場での研修
東海	2/2	三重県総合文化センター 生活工房	学校栄養教諭・栄養職員・酪農家	45	三重県「食べる牛乳セミナー」…牛乳乳製品を活用した料理教室
	2/9	長野県松本合同庁舎2階健康教育室・調理実習室	学校栄養教諭・栄養職員・酪農家	30	長野県「食べる牛乳セミナー」…牛乳乳製品を活用した料理教室
九州	11/26	熊本県	教育関係者及びその家族	22	酪農体験学習会及び現地会議
	1/28	福岡県	教育関係者及びその家族	7	〃

8 . 教育関係者とファシリテーター等の ネットワーク活動と実践活動の充実

昨年8月に発足した日本酪農教育ファーム研究会の主催で、8月7日～8日の2日間にわたり、夏の研究集会が開催された。

研究会の会員である教育関係者を中心に、酪農家や関係者など、約30名が参加。

【プログラム】

1日目は、福島県・黒沢牧場の代表、黒沢寛寿氏より「福島の酪農負けねえぞ」と題して、福島県における東日本大震災の被害や現状、今後の対応策などについて講演。その講演を題材に、グループ毎に教材化を考え討議を実施。



2日目は、山口県岩国市立灘小学校の角井深雪教諭より「牛乳(乳)・牛・酪農家を感じる、酪農体験にするために」と題した実践の報告がされ、参加者により意見交換を行った。



9. ホームページなどの情報環境の整備や「感動通信」等による各種情報の提供

- (1) 酪農教育ファームホームページについて、関係者が必要かつ有用な情報を取得できるよう一層の充実を図り、またモバイルから牧場マップが閲覧できるように、情報環境を整備。
- (2) 教育関係者やファシリテーター等に対して、教育効果や教育的な視点、実際の活動の優れた事例、教育現場の動向などの酪農教育ファーム活動に係る幅広い情報を、「感動通信」（年4回発行）等を通じて提供。
- (3) 様々な切り口から酪農を題材にした新たな取り組み事例について収集し、広く普及するため、事例集を作成。
- (4) 学校現場で「酪農」について学ぶための映像教材『牛乳のふるさと・牧場の一日』を作成。



10. 関係団体との連携の強化

(1) 乳牛や酪農家とのふれあいにより、被災した児童などの心の傷を癒し、食といのちの大切さについて実感してもらうことを目的に、畜産経営支援協議会（事務局：中央畜産会）からの日本中央競馬会公募事業の補助を受けて、地域交流牧場全国連絡会の全面的な協力のもと、東北地域を中心に被災地復興支援事業を実施。

9月9日に宮城県石巻市橋浦小学校で「も～も～スクールIN橋浦」を開催。参加児童170名（全校児童）

11月10日に大船渡市立綾里小学校で「も～も～スクールIN綾里」を開催。参加児童21名（3年生）

(2) 日本酪農教育ファーム研究会の協力を得て、東日本大震災を題材にした紙芝居「牛乳が消えた?!」を作成。震災を通じて考える「食」「酪農を支える人々の思い」「ミルクサプライチェーン」を子どもたちにわかりやすく伝えることが目的。HPよりダウンロード可能。



日本酪農乳業協会（Jミルク）主催の栄養士・栄養教諭対象指導者研修会（全国4箇所）に全国学校栄養士協議会とともに協力。

「食といのちの学び支援全国協議会（事務局：中央酪農会議）」は、国の食育推進事業を活用。

1 1 . 口蹄疫発生に伴う酪農教育ファーム活動の実態の把握と対応

- (1) 認証牧場・ファシリテーターに対する活動実態調査等を通じて、口蹄疫発生に伴う影響について、情報収集を行った。
- (2) 22年8月に策定した「交流活動における感染症防疫マニュアル」等を活用し、改正された家畜伝染病予防法・飼養衛生管理基準に沿って交流活動が安心安全に行えるように、研修会等の機会をとらえて、ファシリテーターや関係者に周知徹底を図った。
- (3) 体験者に対して、感染症防疫の重要性を啓発するためのリーフレットを作成し、イベント等で配布。(食中毒予防についても注意喚起)
- (4) 訪問者に対して、立入禁止区域を明示し、消毒の徹底などをわかりやすく促す看板を作成。



12 . 海外先進地域（フランス）の視察研修の実施

国家事業として教育ファーム活動に先進的に取り組むフランスを訪問し、現地で関係者等から実践的な事例や研究を学び、今後の日本の酪農教育ファーム活動に役立てることを目的として、10月12日（水）～19日（水）にかけてフランスの視察研修を実施。

北フランスのルールとパリ近郊のモデル教育ファームでの体験活動及び小学校での農家による出前授業を視察し、現地の農家・牧場スタッフ等と意見・情報交換を行った。



結果については、中酪情報や感動通信等で紹介。

成果と課題

【成果】

（１）体験プログラムの効果検証

22年度までの研究結果を活かして、23年度は体験プログラムの効果検証を目的として、2つの調査研究を実施した。

教科横断的なカリキュラムを開発して多様な活動を実施した効果検証については、体験をそのままにせず、児童が自分なりに咀嚼し解釈しなおす時間を持つことにより、児童の学びを生み出すプロセスを確認することができた。

どのような酪農家の声かけがより効果的なのか、多数の事例を分析することによって、教育的効果を検証することができた。

以上のように、活動を社会的に広く普及するための具体的な検証結果を得ることができた。

（２）被災地支援及び東日本大震災を題材とした教材開発

畜産経営支援協議会とも連携し、東日本大震災で大きな被害を受けた小学校で、地域交流牧場全国連絡会、東北生乳販売農業協同組合連合会などの関係団体の全面的な協力のもと、出前授業を実施した。この体験では「癒し」を大きなテーマのひとつとしていたが、児童や教育関係者たちの反応から、「牛」「酪農」に「癒し」の効果があることが確認された。

また、日本酪農教育ファーム研究会の協力のもと、震災後に首都圏から牛乳がなくなった理由を紙芝居にまとめ、震災を通じて、当たり前の「食」が当たり前ではないことや、「酪農を支える人々の思い」「ミルクサプライチェーン」を子どもたちにわかりやすく伝えることができた。

（３）酪農家と教育関係者のネットワーク活動

食といのちの学び支援全国協議会とも連携し、新たな学校・教育関係者とのネットワーク獲得を目的として、教育関係者対象の研修会やモデル出前授業等を実施した。「酪農」を授業に取り入れてもらう、酪農教育ファーム活動を知ってもらう、という観点から、参加者・実施校を中心に、活動の認知を得た。

また、家畜防疫に留意して活動が求められ、実践面で制約があったものの、地域交流牧場全国連絡会や日本酪農教育ファーム研究会と連携したことにより、多様な実践活動ができた。

【課題】

（１）安全・衛生対策の周知徹底

韓国などの東アジア圏をはじめとして海外各地で口蹄疫が続発している状況のなか、安全衛生対策については、万全を期す必要がある。関係団体や認証牧場に対して、22年8月に策定した「交流活動における感染症防疫マニュアル」や感染症予防のための来場者向けリーフレット等を活用し、交流活動における安全・衛生対策について周知徹底を図り、全国的に安全で安心な交流活動ができるように支援することが重要である。

（２）研修会の充実と認証制度の円滑な運用

研修会については、年々プログラムの充実を図ってきたが、参加者の経験やスキルのレベルが多岐に渡ることから、それに合わせた、さらに充実した内容のプログラムが求められる。

また、特にスキルアップ研修会に関しては、3年に1度の受講義務があることから、対象者が受講しやすいように開催の機会や開催地を増やすことを検討するとともに、受講者のニーズにあわせた多様な内容のプログラムを検討することも重要である。

（３）認証牧場の量的拡大と質的向上

認証制度創設当初（平成12年度）より、認証牧場の数は確実に増加してきたが、認証牧場が近隣に少ないという理由から、地域によっては酪農体験を希望する学校や団体に対応できないところもある。また、認証牧場が望んでいる人数・団体数に対して過多や過少があり、受入れ実態に温度差がある。そこで、交流活動を行っている牧場（オープンファーム）に対しても、認証制度を含めた情報を提供することが必要である。また、既存の認証牧場に対しては、研修会の積極的な参加や他の交流活動の内容についてなどの意見・情報交換を通じてお互いに学び合い、質的な向上を目指すことが重要である。

（４）研究事業成果の普及

さまざまな角度からこれまで検証された酪農教育ファーム活動の効果を、メディア等を通じて紹介するなど、全国的に普及し、理解を深め、活用していくことが必要である。